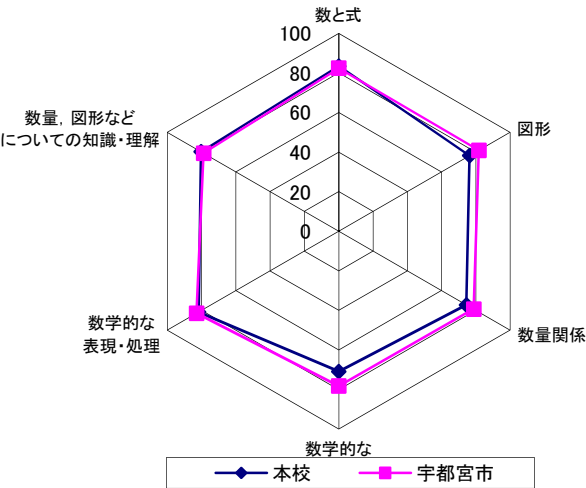


宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	83.4	82.4
	図形	76.4	81.8
	数量関係	74.5	78.7
観点別	数学的な見方や考え方	70.9	78.3
	数学的な表現・処理	81.8	82.9
	数量、図形などについての知識・理解	80.3	78.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (83.4%)	・平均正答率が市の平均に比べ＋1%と、昨年度（－9.1%）と比較すると大幅に改善されたと言える。特に素因数分解・2次方程式等の計算では市の平均を大きく上回り、基礎力が定着しつつあることが伺える。ただ、記述式の問題で無回答が多かった点は問題である。	・引き続き反復練習を重ねてしっかりと基礎を身につけさせたい。また、これを土台に応用力をつけていくような内容も数多く取り組ませていくとともに、何よりも考えようとする態度が身につくような課題を工夫していきたい。
図形 (76.4%)	・全問で市の平均を下回り、合計でも－7.5%であった。図形そのものに対する苦手意識は根強く、三角形の相似・円周角の定理等の基本的な性質もあやふやな生徒が多く見られる。	・基本的な性質（定理）が身につくように反復練習が必要。計算問題は積極的に取り組むので、円周角の大きさや相似な図形の辺の長さなど、図形の性質を用いた計算問題を確実に解くところから取り組ませ、理解を深めていきたい。
数量関係 (74.5%)	・昨年度も最も苦手とした領域であるが、市の平均との比較では昨年度－9.9%に対して今年度は－4.2%と、多少改善の兆しもみえてきた。変化の割合を求めるような比較的単純な計算はできるものの、関数のグラフを判別したり関数を利用したりという点はまだまだ定着できていない。	・形式的な計算はできるが、関数の考え方そのものがイメージできていない。関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係等々根本的な部分の理解を深めさせていきたい。